

別紙3「第4回羽村市長期総合計画審議会 委員の意見等」

議事(3)基本構想の策定に向けて

No	委員名	基本構想の策定に向けた意見
1	江本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と利便性の共存 <p>増加するリモートワークや働き方改革による意識の変化によって、労働環境は10年で大きく変わると思われる。山梨や長野まで移住しなくても、羽村で自然を満喫しつつ、都会の利便性も享受して仕事をすることをプロモーションしてはどうか。今ある自然や公共施設の保持・充実と併せて、デジタル環境の整備が必須と考える。</p>
2	中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が、何事にも主体的にかかわりを持って取り組めるまちに。そのためにはまず、まちを知るチャンスづくりを。 ・日常的にひとが行き交うまちに、そのための仕掛けを多面的に創出する ・自然は未来に残すべき財産 できるだけ田んぼや畑を残してほしい
3	山下委員	<ul style="list-style-type: none"> ●財政の見直しと市民サービスの重点化 <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による行財政のスリム化。 ・高齢者と子育て世代のニーズに対応を絞る。 ・防災対策はハザードマップを基本に具体的な対策を。 ・公園を5万人都市として再度見直し、リニューアルする（高齢者と子どもが活用しやすいエリア化） ●自然を生かした街づくり <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川流域、畑、林の保存 ・歩道の緑化 ・電柱の地中化 ●病院と高齢者施設の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・「はむらん」の活用

No	委員名	基本構想の策定に向けた意見
4	橋本委員	<p>多摩川の活用について（羽村／自然／多摩川／子ども／遊び） 夏休みでも多摩川で遊んでいる子どもをほとんど見たことがない。 親子連れで多摩川に来てバーベキューをしているくらい。親が川で遊んだことがないから遊び方がわからない。多摩川というキーワードは多く出てくるが、今のままでは水が冷たくて危険、子どもから目が離せない、魚も釣れない(大人でも)。川があることを知っているだけ。でも、かつて多摩川は少年たちの社交場であった。 宮ノ下グラウンドの先には広い河原が広がっている。2年に一度、宗教行事の灯籠流しで水路を作り翌日には埋め戻される。そこに遊びの拠点を作りたい。本流から浅い水路を何本か引き込み途中に池を作る。深い池と浅い池、幼児用と一般用。そうすると水温が上がり水生昆虫や小魚が集まってくる。無論、年齢を問わず安全に泳ぐことも可能だし按摩釣りもできる。 小作の堰下から本流はフライフィッシングのキャッチ&リリースエリアとする。年間を通じて都内からのフライフィッシャーが絶対やってくる。魚道が機能するようになったら天然のアユ釣り期間を設ければよい。奥多摩漁協と掛け合うには、市を挙げての交渉が必要である。川(川原)の利用は河川法という意味不明な規制で縛られ、おまけに利権が絡むが、一つ一つ壊していかないと本当に自由な自然を取り戻すことはできない。これは個人の力ではどうにもならない。あらゆる手段を使って行政が取り組むべき課題であると考え。人の手が加わっているけれど、子どもたちに自然を取り戻し、遊びの中から様々な技を学び、楽しさを知り、原風景を作り上げていくことが、未来に向けての大人の役割である。自然を大切にと言うが、自然の中で過ごすことがない大人には大切にする方法も意味もわからない。</p> <p>河原の水路は大雨や台風が来ればすぐに壊れてしまうが、そのたびに新しく作り直せばよい。水上公園を維持するだけの費用があれば微々たるものである。できれば川原に管理人を置きたい。昔、川でさんざん遊んだ高齢者はいくらでもいる。研修を受けたボランティアやリバーキーパーの養成と設置により、川遊びの指導、安全管理、切り傷や熱中症や虫刺され等のリスク対応、昔の漁法のデモンストラクションなども行う。 阿蘇公園は市で借り上げて解放し、ソロキャンプも可能とする。市は年に2回、やぶ蚊やマダニの駆除などを行い、夏場でも気持ちよく過ごせるような木陰を作ればよい。狭いエリアであるから、管理にそんなにお金はかからない。多分、職員一人分の人件費があれば十分である。 ちなみに私の保育園では毎年多摩川に泳ぎに行き、阿蘇神社の草むらでテントを張りキャンプをしている。10年後、全ての子どもたちが羽村の多摩川でそのような経験をしてから大人になってもらいたい。もし自分にできることがあるなら、私はもうすぐ定年なので、その手伝いを喜んでさせていただく。</p>
5	佐藤委員	<p>健全な財政あつての政治、生活だと思ふ。財政が厳しいのであれば、限りある資源の活用、早期リストラが重要。 中には厳しい意見もあるが、抜本的に見直すことも重要に思った。たとえば、資料4-(2)-8(成沢委員)の意見、資料4-(2)-3(橋本委員)の意見は、実務、実績に結び付く視点だと思ふ。 皆、羽村が好きな市民の意見である。職員プロジェクト5つを早期に対応してほしい。</p>
6	池上委員	<p>若い世代、子育て世代、一般市民それぞれが望む居場所がまちのあちこちにあり、交流を通して、お互いに支え合い、生き生きと暮らせるまち 年々増加する高齢者のエンパワーメントを引き出せる活動の場づくりを進めるまち (例：シルバー人材センターに登録し、特技を活かし、収入にもつながると生活に張りが出てくるし、子育て中の悩みなども気軽に相談できる人生の先輩たちの役割はたくさんあると思う)</p>
7	山田委員	<p>10年後、私は羽村市に現在の羽村の良さを残した住みやすいまちであってほしい。 チューリップ畑や多摩川、市内の樹木などの素敵な自然を残しつつ、道路標示の見えづらい部分や、ちょっとした段差がなくなると、より住みやすいまちになる気がする。 また、インフラ面だけでなく、より安心で安全なまちにするために、自分たちが率先して挨拶を増やしていきたい。 「笑顔でいっぱいのもち羽村」</p>

No	委員名	基本構想の策定に向けた意見
8	伊藤委員	<p><10年後> ●「共助のまち」 ・行政と市民がお互いに支え合う ・若者・子育て世代と年配者がお互いに支え合う ・消費者と事業者がお互いに支え合う など [良いところ]小さい、ゆえに市民同士“顔が見える” [改善]コミュニティに参加する人(少数派)、しない人の分析 [挑戦]ITを活用し、“共助”を促すプラットフォームを構築 [自分ができること]共助に関する市民団体への参画(立ち上げ) <アイデンティティ> ●職住一致 ・既存の産業(工業地域など)を残しつつ、新規の創業がしやすい(副業が当たり前の世の中になっていくため) ・リモートワーカーにとってうれしい街(ワーキングスペース、息抜きなど) ・年配者が地域で生き生きと働ける(ボランティア含む) <キーワード> ●共助のまち</p>
9	成沢委員	<p>・10年後、羽村市がどのようなまちであってほしいか 地域によって差はあれど、風通しの良さは羽村市の長所であり大切にしてほしい。 目線は高く、多摩地域でのNo.1を目指すのではなく日本1を、国境を越えられるところを目指してほしい。</p>
10	木下智実委員	<p>・個人的な意見としては、(1)(2)で述べたことが中心になる。 ・自身は、市民記者として羽村市のPRを今後も続けたいと考えている。 ・また、羽村市の教育改善のためになにか有志の教育者を集めた学習会などを開催することを目論んでいる。</p>
11	平野委員	<p>10年後のはむら暮らしにあってほしいモノ・コト。 ・羽村に住んでいてよかった!と感じる市民が7割以上である ・子どもたちの心身ともに健康な発育を支援するコミュニティー ・子どもたちの心身ともに健康な発育の支援となる市内環境/設備 ・子どもたちが安心して単独で市内を移動できる治安 ・西多摩市町村のなかで群を抜く、質の高い環境教育 ・10代後半世代に向けての、生活スキル(家事)教育の向上 ・多様なジャンルの学び/人との出会いの機会が、中高年層にとっても豊富にある ・子育てから手が離れた後や退職後も、羽村に飽きずに楽しみながら暮らせる ・市民と行政のコミュニケーションが円滑である ・市民の声が市政に反映されている成果が明確に市民に伝わっている ・市民のあいだで我がまち運営参加意識が高く、「暮らしよいまちは自分たちで育てられる」を実感できる ・生涯学習企画としての「大人たちの再通学?」※1 ・レジャースポットのさらなる創出※2</p>

No	委員名	基本構想の策定に向けた意見
12	平野委員	<p>※1：子供たちが今学校で学んでいる内容を、大人たちも再勉強できたら面白そうだ。たとえば、40～50年前の教科書内容から変化している部分を重点的に取り上げたり、もう一度受けたい授業項目を募集して実施したりするなど。オンライン化の時代だが、週末や夜に校舎が解放され、あえて教室に集合する機会があるのも素敵だと思う。(もちろん毎日通学ではない)</p> <p>※2：市内企業が市民向けアトラクションを企画できないだろうか。今や大人にも子供にも大人気なあの職業体験型アミューズメント施設がヒント。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車ランド(日野自動車?) ・Printランド(印刷所?) ・科学実験ランド(宇宙工学企業?) ・食品製造見学コース? ・家具/内装リノベーションワークショップ(廃棄家具と空き家の活用)など